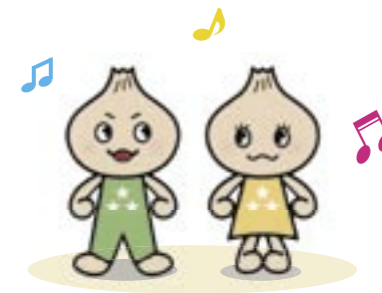


2012 南あわじ 食と文化の市民まつり



01. 多くのお客さんと大盛況の食と文化の市民まつり会場 02. 広田保育園年長組の45人の子どもたちによる踊り『ヨッシャ来い!!』 03. 倭文保育園4歳児きりん組19人と5歳児ぞう組15人による体操『げんきたいそうダゼー』 04. 五尺踊り保存会の指導を受けた広田小学校郷土芸能部と一緒に『傘おどり』を披露 05. よさこい楽奏グループ『輪』の皆さんによる踊り『淡路乃国 洲本八狸 ～大阪珍道中の段～』

サンライズ淡路・淡路ふれあい公園で10月21日、市民まつりの最後を締めくくる「南あわじ食と文化の市民まつり(同実行委員会納幹彦委員長ほか34人)」により開催されました。

食と文化の市民まつりに先がけ10月20日には、緑市民センターで前夜祭「市民カラオケ発表会」が市老人クラブ連合会の協力により開催。今年と同連合会選抜の23組と公募参加8組が自慢の歌声を披露。集まった聴衆を魅了していました。

食と文化の市民まつり当日は、市内4中学校吹奏楽部による演奏によりスタート。その後もステージ上で各団体による発表が披露され、秋晴れの爽やかな天候のもと観衆から惜しみない拍手が送られました。

今年ハートキャッチプリキュアや人気お笑いコンビの「オリエンタルラジオ」、「天津」の2組も登場。子どもたちはプリキュアと3択クイズをしたり、一緒に写真撮影したりと普段テレビで見ているヒロインの登場に目を輝かせていました。

またお笑いライブではこの日一番の盛り上がりを見せ、会場には大きな笑い声が響いていました。

この日は会場内で生活協同組合コープこうべ「組合員まつり」が同時開催されたほか、たくさんのお団体も出店。体験コーナー、おもちやそうめんの振舞いなども行われ大盛況のうちに閉幕しました。

「鳴門のうず潮」世界遺産登録に向けて



▲鳴門のうず潮と大鳴門橋

鳴門のうず潮をユネスコの世界自然遺産に登録しようと市内ホテルで10月30日、「鳴門のうず潮」世界自然遺産登録推進協議会が発足しました。

今年3月には島内3市などが主催する「国生みフォーラム淡路島」を世界遺産認定に深く関わってきたユネスコの前事務局長の松浦晃一郎さんを迎え開催。松浦さんは「うず潮は自然遺産として登録をを目指すのが良い。登録に向けて地元が一致団結することが重要だ。時間はかかるが、さらめずに息の長い取り組みが必要である」と話しました。そして同フォーラムがきっかけとなりこのほど協議会の発足となりました。

初会合となったこの日は、行政団体のほか、淡路島に



▲世界自然遺産登録に向けて討議する協議会メンバー

うみ協会や自治会、観光協会、商工会、漁協関係団体など23団体30人が出席。同協議会設立の発起人である中田市長は「うず潮は淡路島が誇る世界に通用する観光資源。みんなで知恵を出し、汗を流して世界自然遺産登録を目指したい」とあいさつしました。

同推進協議会では、垂れ幕やのぼり、グッズなどを作成し、観光施設等で広報活動を行うほか、世界遺産登録された地域からノウハウを学ぶ計画です。そして世界自然遺産の登録に向け、まずは国内の暫定リストへの登録を目指すとしています。

南あわじ淡路島牛乳フェア



▲牛乳パックを使った帽子作り

淡路島牛乳や市の特産物をPRして消費拡大や地域活性化につなげることを目的と



▲高校生のアイデアで作られた試作品

淡路三原高校食物部と淡路ファームパークイングラントの丘が共同で商品開発を進め、淡路島の食材を活かした新しいおやつを試作品が完成し、10月27日に同校の文化祭で振る舞われました。

当日のアンケート結果も今後の改良に役立て、来年1月の商品化を目指します。

試作品はロールケーキ、ピザ、クッキーの3品で、ピザは完成度も高くイングラントの丘で翌日28日から販売が行われています。



▲しまくつきー ▲玉ねぎとちりめんピザ ▲びわクリームと米粉のロールケーキ

▲いずれも淡路産の米粉やタマネギ、淡路島牛乳、ちりめん、わかめ、ピワなどの特産食材を使った自信作です

牛乳や特産物をPR



▲牛乳鍋を食べる人たち

他にも、牛乳大声コンテストや地域の特産品販売等が行われました。